

# 平成26年度 通常総会報告

開催日時 平成26年5月30日 [金] 15時00分～17時30分  
開催場所 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル8階  
一般社団法人 全日本船舶職員協会 会議室



出席者 議決権のある社員総数 679名  
(本人出席 25名)  
(委任出席 643名)  
(書面表決 11名)

## 【内訳】

総正会員数の議決権の数 1210名  
出席正会員数(委任状による者及び書面表決による者を含む)

出席理事 12名  
出席監事 1名  
理事・監事以外の出席者 666名

## 実出席者氏名

相川 康明、赤嶺 正治、岩江 成徳、岩田 仁、  
内田 成孝、及川 武司、大賀 英朗、大西 正則、  
沖川 守、小池 信雄、小松 和夫、小山 逸男、  
七呂 光雄、田中 三郎、田中 善治、蔦正 昭、  
富岡 栄一郎、福地 赳雄、本望 隆司、増田信、  
松見 準、三輪 史郎、望月 正信、山田貢、  
渡部 英利、

## 1 議事経過

定刻15時に本望専務理事が開会を宣し、次いで事務局から本日の通常総会は定款第18条の定足数を満たしたので有効に成立した旨を告げた。続いて定款第17条に基づく議長の選任を諮ったところ、三輪史郎氏が議長に選出された。

議長から挨拶の後、議事録署名人を指名したい旨

を述べたところ相川・大賀両理事から署名人申し入れがあり、また議長一任の発言により議長から田中善治氏・富岡栄一郎氏が署名人候補として提示され採決したところ賛成多数で田中善治氏・富岡栄一郎氏を議事録署名人に選定した。同議事録署名人は、席上その就任を承諾した。



三輪議長

## 2 審議

第1号議案 平成25年度 事業報告(案)について

第2号議案 平成25年度決算(案)について

議長は、標記の議題について、事務局に一括して説明を求めた。専務理事本望隆司が、当期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)における事業状況を事業報告書及び附属書類により詳細に説明・報告し、さらに平成25年度公益目的支出額及び公益目的財産残額について説明し、下記の書類につき承認を求めた。

- ① 貸借対照表
- ② 正味財産増減計算書
- ③ 財務諸表に対する注記
- ④ 財産目録
- ⑤ 正味財産増減計算書予算対比
- ⑥ 事業別収支計算書

蔦監事は、上記書類を調査し正確適法かつ妥当であることを認めた旨を報告した。議長が賛否

を議場に諮り、賛成多数で可決した。

### 第3号議案 役員の選任及び解任について

議長は、標記の議題について、事務局に説明を求めた。

専務理事本望隆司から、代表理事、理事、及び監事全員が本通常総会の終結と同時に任期満了し、退任することになるので、その改選の必要があるため、次期役員候補として役員選考委員会の議を経て理事相川康明、赤嶺正治、岩田仁、及川武司、大賀英朗、加山文治、小池信雄、七呂光雄、田中三郎、富岡栄一郎、福地赳雄、松見準、三輪史郎、望月正信、山田貢、監事 亀山道義、渡部英利が立候補しているとの報告があった。

また、既に全ての役員について過半数の賛成が得られているので、一括して決議したいとの提案があった。

議長が賛否を議場に諮り、賛成多数で可決した。尚、出席した被選任者は全員、席上その就任を承諾した。また、本日本人欠席の加山文治については、既に承諾書が出ている旨、議長から報告があった。

### 第4号議案 その他

なし



出席した正会員の方々

### 3. 閉会

以上をもって議案全部終了し、次いで専務理事本望隆司から報告事項平成26年度事業計画及び予算説明の後、議長は閉会の挨拶を述べ17時00分散会した。

### 4. 平成25年度物故された方々

平成25年4月1日～平成26年3月31日

岩田 三次 (広島 N69期)

岩本 真輔 (弓削 N74期)  
円間 幸一 (富山 N61期)  
上総 正博 (鳥羽 N82期)  
白井 信男 (弓削 N53期)  
林 幹夫 (鳥羽 N65期)  
堀口 隆 (その他校)  
吉垣 実 (富山 N40期)

### 5. 祝電をいただいた方々

富山高等専門学校 校長 石原 外美 様  
鳥羽商船高等専門学校 校長 藤田 稔彦 様  
広島商船高等専門学校 校長 村上 定瞭 様  
大島商船高等専門学校 校長 石田 廣史 様  
弓削商船高等専門学校 校長 木村 隆一 様  
(独)航海訓練所 理事長 飯田 敏夫 様  
(一社)海洋会 会長 豊田 耕治 様  
(一社)日本船長協会 会長 小島 茂 様  
(一社)日本船舶機関士協会会長 平井 奉行 様  
日本水先人会連合会 会長 福永 昭一 様  
(一財)海技振興センタ 会長 宮原 耕治 様  
北斗会(富山高専同窓会)会長 山口 光三 様  
鳥羽商船高等専門学校同窓会会長 菱田 司 様  
広島商船高等専門学校校友会会長 山本德行 様  
川和会 会長 河合 道男 様  
(株)商船三井 代表取締役社長 武藤 光一様  
(株)商船三井 専務執行役員 根本 正昭 様  
日本海事新聞社 代表取締役社長 大山 高明 様  
海文堂出版(株) 代表取締役 岡田 節夫 様

### 6. ご祝儀等いただいた方々

(一社)日本船舶機関士協会 様  
(一社)日本船長協会 様  
(一社)海洋会 様  
日本水先人会連合会 様  
独立行政法人 航海訓練所 様  
海文堂出版株式会社 様  
(株)日本海事新聞社 様  
岩江 成徳 様  
福地 赳雄 様

## 懇親会の開催

平成 26 年 5 月 30 日（金）18 時より全船協本部において、総会後の懇親会を開催した。

来賓として一般社団法人 海洋会 豊田会長様、一般社団法人日本船舶機関士協会 井手副会長様、一般社団法人日本船長協会 小島会長様、日本水先人会連合会 福永会長様、独立行政法人航海訓練所 飯田理事長様及び同伴の方々のご列席をいただき、また海文堂出版、日本海事新聞社、日本海事広報協会、内航新聞社からの参加をいただいた。

来賓の御挨拶に続き、機関士協会の井手副会長に乾杯のご発声をいただき、和やかに懇親が進められた。

### ・全船協岩田会長挨拶

本日は当協会の懇親会にご出席いただき厚く御礼申し上げます。

協会は役員改選の年度に当たるため、先ほど、総会後に臨時理事会を開催し、新役員を選出しましたのでここに紹介いたします。

内田前会長の後を受け会長を務めることになりました岩田です。よろしくお願ひします。

新副会長に、赤嶺理事、と富岡理事が就任いたしました。また、本望元専務理事の後をうけ新専務理事に及川理事が就任いたしました。事務局長の七呂理事は留任となりました。

このメンバー 5 名と、他 10 名の理事で力を合わせ、これから 2 年間 全船協の事業をすすめてまいります。当協会の歴代会長は皆さまも御存知のように錚々たる人たちがばかりであり、私のような浅学・非才の者が会長職を全うできるか胸を痛めております。会員の皆様のご協力とお力添えと、また、本日出席の関連海事団体の皆様のご指導とご鞭撻を頂きながら会長職を全うしたいと決意しているところでございます。

当協会は一昨年の平成 24 年度に一般社団法人として新たにスタートしたわけですが、一般社団法人

の認定を受けるに際しては前任の内田会長と本望専務理事には多大なる労力を傾注して頂きました。

この席をお借りしお二方には心より御礼を申し上げます。

内田前会長が就任した平成 22 年夏、MM21 の「横浜みなと博物館」で創立 80 周年記念事業として、全船協 80 年の活動を振り返る、パネル展を開催いたしました。

あれから 4 年たちましたが、次の 90 周年を皆様と笑顔で乾杯し迎えられるよう老骨に時には鞭を当てながら、職務に取り組んでいく覚悟でございます。

本日は我々の仲間であるホテル・マリナーズコートからの、心をこめた料理の数々を用意いたしました。時間の許す限り歓談、くつろいでいただければ幸いです。

最後に、改めて、本日出席していただきました皆様方に御礼申し上げますと共にこれからもご支援とご協力を賜りますようお願いし、私の挨拶といたします。本日は出席ありがとうございます。

### ・海洋会 豊田会長

総会も滞りなく終了し、内田会長と本望専務理事がご退任され、新たに岩田会長と及川専務理事が選任され、誠におめでとうございませう。

全船協と海洋会は、それぞれ商船学校を出た者が海事専門家として社会貢献することを目的としています。が、職能団体ではなく活動のテーマが幅広い同窓生の賛同を得るのが難しく、また、社会も核家族化になって、若者が集まって活動しようとするような気運がなくなり、会の運営にもお互い苦勞しています。

新会長、新専務理事も苦勞されることと思ひますが、海洋会は全船協としっかり連携し乗り切る決心ですので、宜しくお願ひいたします。



・日本船長協会 小島会長

フェリーの事故が発生しました。原因の調査報道より“ハインリッヒの法則”そのものだと思います。大きな事故のうしろには、多くの小さな問題が隠れている。いろいろな要因が重なりました。

訓練、船の設備、積みつけ方法、経営者、国の管理体制等、それぞれが重要課題であることを感じます。

また、このような事故が発生することによって、“若者の海離れ”がすすまないことを願っています。

日本船長協会は、小学校、中学校を訪問して子供達に海や船について話しをしています。

若者が海や船に、興味を持つように育っていくことが必要です。

皆様と一緒にやっていきたいと思しますので、よろしくをお願いします。



・日本水先人会連合会 福永会長

官民挙げて若者が海・船に集まるように努力しているにもかかわらず、中々集まりませんが、空のパイロットも足りないとのことで海・空のパイロットとも不足という憂慮する事態となっています。

そんな中で商船系高専5校を訪問してきましたが、昔からすればかなり変わったなということを実感しました。特に女子学生が多く在学し華やかになっています。そして女子学生の方が元気があるように感じました。

水先人の世界にも既に5人の女子水先人が誕生しています。いずれ全船協も女子会員が増えてくる時が来るでしょう。いずれにせよ海運国家を支える若者達が海事産業にどんどん来てくれることを願い、又皆様方も若者達を海に、船に引っ張り込む役割を果たされることを願っています。



・航海訓練所 飯田理事長

全船協が創設されて80余年が経ちますが高専にな

って40年を大きく過ぎ、既全船協の歴史の半分以上を占める時代となっています。

5校で定員が200名で、そのうち180余名が練習船に來ています。

従来は卒業前の1年間に連続して乗船実習していましたが、昨年からは2年で1ヶ月、4年で5ヶ月、6年で6ヶ月乗船するパターンに変更しています。

現在2年生の乗船が始まっていますが、練習船で感想文を書かせたところ船に乗りたくて商船学校へ入って乗船して船を知って、益々船に乗りたくなったと書いている学生もいます。そのような学生を最後までしっかり育てていきたいと練習船でも思っています。

皆様が学校に行かれたら、学校にもそのような指導を強く行っていただくように助言を頂ければと思います。そうすることで全船協の組織も増え活力ができればと思います。

今回お招きいただいた他の団体も若者を海・船に呼び込む活動を行っておられますが、練習船も寄港地で海・船のPRや学生募集活動を行っていますが、全船協ともタイアップしながら行っていきたいと思しますので、今後もよろしくをお願いします。



・日本船舶機関士協会 井手副会長

平井会長が急用のため、私が代わりまして乾杯の音頭をとらせていただきます。

全船協の総会も無事終わり、おめでとうございます。

それでは、全船協の益々の発展と皆様方のご多幸とご健勝を祈って乾杯したいと思います。

**乾杯!**

